

図形オブジェクトのリプロジェクト

ご存知でしたか?... リプロジェクト (再投影) によって、図形オブジェクトの地図投影法を変更したり、空間的歪みを補正することができます。

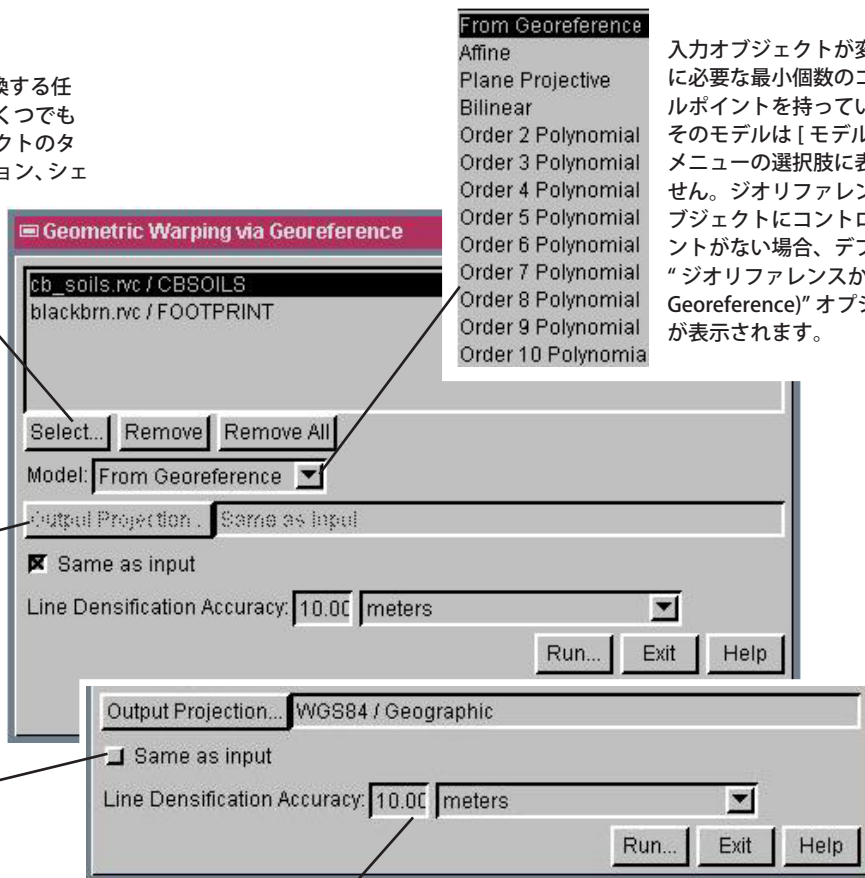
図形オブジェクトをリプロジェクト (再投影) することで...

- 複数の図形オブジェクトを同時に変換 (ワープ) できます。
- ジオリファレンスや範囲が同じでなくても構いません。
- さまざまな図形変換モデルを使ってリプロジェクトできます。
- 暗示的ジオリファレンス (オブジェクトの座標=リプロジェクトの座標) を持つ出力オブジェクトを作成します。

[選択 (Select)] ボタンを押して、変換する任意のタイプの図形オブジェクトをいくつでも選択できます。選べる図形オブジェクトのタイプには、ベクタ、CAD、TIN、リージョン、シェイプオブジェクトがあります。

[出力プロジェクション (Output Projection)] ボタンで、座標参照系を変更できます。
[ソースの座標参照系に合わせる (Same as input)] のトグルがオンのとき、このボタンはグレー表示になります。

[ソースの座標参照系に合わせる] オプションは、入力オブジェクトの地図投影法を使って図形オブジェクトの歪みを補正する際に使用します。



入力オブジェクトが変換のモデルに必要な最小個数のコントロールポイントを持っていない場合、そのモデルは [モデル (Model)] メニューの選択肢に表示されません。ジオリファレンスサブオブジェクトにコントロールポイントがない場合、デフォルトの "ジオリファレンスから (From Georeference)" オプションだけが表示されます。

[ラインの頂点を増やす (Line Densification Accuracy)] の値は、リプロジェクトしたラインセグメントと、ライン上の全位置を新たな投影法で計算した場合のずれの最大許容値を設定します。最大許容値を小さくするとリプロジェクト後のラインの頂点が増え、投影後の位置がより正確になります。

図形オブジェクトをリプロジェクトする方法

- [各種図形 (Geometric)] > [リプロジェクト (Reproject)] を選択して、〈ジオリファレンスを通じたベクタ /CAD 変換 (Geometric Warping via Georeference)〉ウィンドウを開きます。
- [選択] ボタンをクリックして、変換 (ワープ) するオブジェクトを選択します。
- 適当な図形変換モデルを選択します。
- 出力の投影法が入力オブジェクトと異なる場合、[出力プロジェクション] を設定します。
- [実行 (Run)] ボタンをクリックします。



さらに知りたいことがあれば...

マイクロイメージのウェブサイトをご覧ください

